

思いきりみかん畑の中で

おもしろしやうた
大城翔大さん・ひかるさん



5年前、テレビで有田市の新規就農支援策「AGRI- LINK」の特集を見て、これならやってみようかと、勇気を出して有田みかん課に電話をくれた大城さんご夫婦。何度か相談を重ね、移住を決意されました。

「飛び込んでみようという性格なので、就農への不安はあまりなかったです。有田市は、自然が豊かで地域の雰囲気も良い。最初にびっくりしたのは、車同士がすれ違う時に相手の顔を確認するところ。常に気にかけてくれる懐の深さが、ちょうど心地よかったです。」と翔大さん。「みかん畑が壮大。大好きなみかんが思いっきり見える景色はここならでは。毎日見られることが嬉しいですよ。」とひかるさん。

2年間の研修を経て、昨年5月から独立。今は畑を8反耕作していて、ひかるさんも独立のタイミングで一緒に農業を開始しました。

「ごもたちのなりたい職業が農家になれば」という思いは、5年前も今も変わらぬ。「農業はしんどいだけというイメージを変えていきたい。もちろん自然環境が相手なので常に天候のことは気にかけていないといけないが、どうしたらおいしいみかんが作れるか、土づくりはどうすれば良いか、自分で勉強してやり方

を決めていくことができませう。夏場は休みもとやすいし、オンオフをつけやすい。農業って面白い職業だと思ってもらえるように発信していきたい。」

柔らかい物腰で話してくるお二人ですが、みかん作りを極めていくという覚悟が伝わってきました。



①二人で摘果作業を行っていきます。②就農を開始した当時の大城さん。③基礎から教えていただいた有田エイト果樹園の伊藤社長と。④取材の最後には手を振って見送ってくれました。

子育てにもちょうどいい

ひろはた かずき
廣畑和紀さん・友絵さん・凧咲ちゃん



和紀さんはかつらぎ町、友絵さんは静岡県出身。そんなお二人の出会いには東京で、共通の趣味のダイビングサークルから始まったそう。和紀さんの出向期間が終わり、和歌山へ戻ってくるタイミングで結婚を決意。

ダイビングに行きやすく、職場にも近い場所の家を探していたところ、有田市に白羽の矢が。始めはアパートに暮らしながら土地を探し、立地の良い分譲区画があったことから、有田市に家を建てることに。最初は関西の言葉が難しかったという友絵さん。「言葉は難しかったけど、ご近所さんがよく声をかけてくれて馴染みやすかったです。これまで経験がなかったのでびっくりしたんですが、みかんや野菜をいただいたりもします。最近では、私も夫の言葉がうつつてきました(笑)」

凧咲ちゃんは1歳9カ月。お二人とも平日は仕事をしな

がら、協力して育児と家事を両立中。「引越してきた後から始まったんですが、市の子育て支援『マリー・ユー』もありがたかったです。ちょうど妊娠中・出産後に使えるチケットもいただけで、手厚かったです。保健センターでのお母さん向けの催しも多くて嬉しい。」と友絵さん。和紀さんは、「自然も多いし、ゆったりしていて子育てにいい環境。パパも参加できる保健センターでのイベントがあ

れば。」と、育児にも積極的。凧咲ちゃんのこれからについては、「自分がやりたいと思ったことをやってほしい。でも水泳は習ってくれたら嬉しいな。大きくなったら一緒にダイビングへ行きたいから。」とお二人。

少し涼しい風が吹きはじめた穏やかな昼下がり、家を建てる時に一番こだわったお庭で、お二人は優しい笑顔で凧咲ちゃんを見守りながら取材に答えてくれました。



↑新居の庭は家を建てる時に一番力を入れたところ。家族でご飯を食べたり、ゆったりとした時間を楽しんでいます。